

ひびき

ひびき

音

Vol. 7



すべては
子供たちの
笑顔のために

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
Tel.0267-31-0251
Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

東信教育事務所

令和6年 2/16
(2024年)

希う(こいねがう)

❶ 研修の窓

- ・ “決して急がず、しかし、たゆまぬ歩みを”
～第3回 研究主任研修会～
- ・ わたしの学校の重点内容項目は？
～第2回 道徳教育パワーアップ研究協議会～

❷ 考える部屋

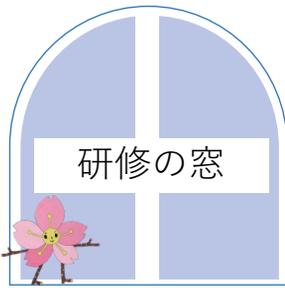
- ・ 「なぜ？どうして？」から始まる学びⅠ

❸ 連携×接続

- ・ 切れ目なく支援をつなぐ

❹ 生涯学習課より

- ・ コミュニティスクールの取組事例
～地域の思いが実現した活動～



研修の窓

“決して急がず、しかし、たゆまぬ歩みを” ～11/24 第3回研究主任研修会より～

「どうしたら職員が同じ方向を向いて取り組めるの?」「総合的な学習の時間はどのように進めたら…?」。迷いながらも、共に次なる“夢”を描き、歩みだした研究主任の先生方の姿がありました。

三人志を同じくする者がいれば学校は変わる。どういった志のもと、何でつながるかという「**結集軸**」が必要。「**日常の授業改善**」を最大の目的で、管理職と対話し、**どんどん頼ればいい**。

(芦原中学校長 相原修先生の話より)

参加者の声



温度差があるのは当たり前で、一人ずつ同土を増やしていけばよいということが心に残りました。

まずは校長先生と教頭先生に研修報告をしました。その中で、職員研修の時間をとってほしいとお願いをしました。



相原先生の「学びを生み出すのは、主体性」という言葉が心に残りました。後輩たちが、主体的に、楽しく研究に打ち込める環境をつくっていきたいと思います。



教科で探究的に学んでいないと、総合的な学習の時間だけ探究的に学ぶことは難しい。逆に総合的な学習の時間で、探究的な学習のよさを実感している子どもは、教科の学習においても探究的に学ぶ。教科と総合は両輪。

(北信教育事務所 小川指導主事の話より)

参加者の声

日常生活の中で問題を解決していく力を育むためにも、各教科の授業で見方・考え方を働かせる学びが大切だと感じました。



目標を実現するにふさわしい探究課題についての、「どんな育ちの姿を目指していくか、職員間で共有する」に取り組んでみようと思います。

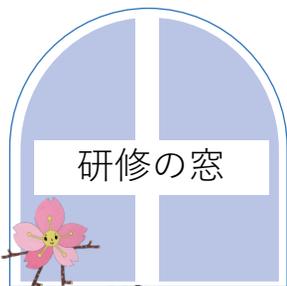


総合的な学習の時間全体計画を、中学校区単位で足並みをそろえられるよう、校内で検討したり、各校の研究主任の先生と連絡を取り合い、情報共有をしながら、進めていきたいです。



研究を進めるための「**結集軸**」も、「総合的な学習の時間で目指す子供の姿」も、各校の「**グランドデザイン**」の内容がヒントになりそうです。ぜひ、職員間で「**目指す子供の姿**」を共有し、そのための「**日常の授業改善**」を進めていきましょう。先生方の学校では、どのように“歩み”出しましたか?





わたしの学校の重点内容項目は？ ～第2回 道徳教育パワーアップ研究協議会～

道徳教育の全体計画は、すべての学校で作成されていますが、子供たちの道徳性を養うための全体計画として、どのように活用していますか？次年度に向けて、まずは学校で重点的に指導する内容項目を見直してみましょう。



Q. 教育活動全体を通じて行う道徳教育と言うけれど、どうやって全体で進めるのですか？

A. 教師が子供たちにかける言葉には、実は、様々な道徳的価値が込められています。

さあ！
教室をきれいに掃除しましょう！

雑巾がけは水が冷たいけど、
がんばろうね！ [勤勉]



掃除の時間は20分間で
すよ！時間いっぱい、掃
除のきまりを意識して働
こう！ [規則の尊重]



友だち同士、力を合わせて掃除を
しましょうね！ [協力]

みんなで使う場所をきれいにするために、
しっかり働こうね！ [勤労]

このように、ある1つの場面でも様々な道徳教育に関わる指導をしていることがわかります。子供たちのよりよい選択・判断を促す生き方につなげるために、各学校の道徳教育の全体計画を基に意図的、計画的、組織的に指導していくことが大切です。

まずは、重点的に指導する内容項目を明らかにしましょう

学校教育目標	
↓	
道徳教育の 重点目標	
↓	
重点内容項目	

(例) 本校の学校教育目標は…

「あかるく なかよく たくましく」



あかるくは「笑顔であいさつができ、



約束やきまりが守れる子」

【重点内容項目 B 礼儀・C 規則の尊重】



*道徳教育推進教師を
中心に、全職員で考え
ていきます。

*全体計画の見直しのポイントや全体計画の別葉、年間指導計画での主題配列の工夫などについては、長野県教育委員会発行の「道徳アシスト」も参考にすることができます。東信教育事務所では、道徳科の授業改善・充実だけでなく、全体計画の見直しや別葉の作成についての相談も受け付けております。ご連絡をお待ちしております。(担当：新海)



重点内容項目を設定する際には、教育活動全体を通して全職員が普段から意識できるように内容項目を精選することが、指導の効果を高めます。次年度に向けて、生きて働く道徳教育の全体計画にするために、重点内容項目の見直しをしてみましょう。



考える
部屋

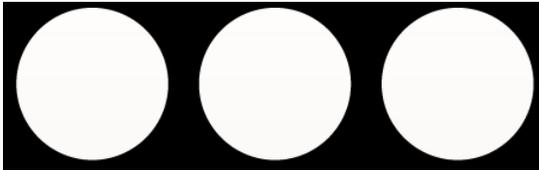
「なぜ? どうして?」から始まる学び!

~ちょっと立ち止まって考える~

誰もが普段何気なく、しかし必ず見ている信号機。ちょっと立ち止まって、改めて信号機をながめてみましょう。

信号機の色並び順を覚えていますか?

左から



下の①~⑥のどれでしょう

- | | | | |
|---|-------|---|-------|
| ① | 赤 青 黄 | ④ | 黄 赤 青 |
| ② | 赤 黄 青 | ⑤ | 青 黄 赤 |
| ③ | 黄 青 赤 | ⑥ | 青 赤 黄 |

どうして、そのような並び順なのでしょう? 予想してみましょう

私の予想

予想を基に理由を考えてみましょう

写真1、写真2は同じ信号機の写真です。どのようなことに気付くでしょうか?

車の運転手や歩行者が見落としたら事故が起こってしまう可能性が高い色はどれでしょう?



次のように考えた方もいるのではないのでしょうか?

【事故を防ぐ為に一番大切な色は、「止まれ」を表す赤だから、赤が、一番見やすい向かって右にある。右にあれば他の標識や街路樹などで隠れにくい。つまり、安全を守るために、信号機の色並び順にも「大切なものは見やすく」という工夫がされてる】。

こんな信号も見つけたよ

アメリカの信号機



なぜ、日本と逆なのかな?

雪の多い地域の信号機



なぜ、縦型なのかな?
赤は上、下?

ある事象から疑問をもち、予想して、考えてみると、新たな事実が見えてくる。そうすると、さらに新たな疑問が湧いてきて、確かめたくなる。大人の学びも子どもの学びもきっと同じなのだと思います。ちょっと立ち止まって「なぜ? どうして?」と周りの人と共有して考えることで、何気なく見ているものからも新たな学びが始まり、身の周りのものやことに探究的な目を向けるくせがついていきます。



切れ目なく支援をつなぐ

これまでつながっていた支援が、校種の垣根を越えたとたん、途切れてしまうことがあります。特別支援教育コーディネーターや担任だけでなく、「その児童生徒」にかかわる全職員で、移行支援のポイントを確認しましょう。



長野県教育委員会HP
特コハンドブック

小学校から中学校への移行支援

特コハンドブック（長野県編集）P52・53



小学校

- 学級担任制で、一人の児童にかかわる先生が限られている。
- 学級担任は「その児童」と過ごす時間が長く、関係がつくりやすい。



中学校

- 教科担任制で、一人の生徒にかかわる先生が多くなる。
- 一人の先生が「その生徒」とかかわる時間が短く、関係づくりが難しい。

小学校での支援が、そのまま中学校では使えないかもしれない。

『できる』情報の伝達を!!

移行支援のポイント

実際に自分の目で!!



- できること、そのための状況
- 具体的な支援方法

- 参観や面談で様子を観察
- 体験学習を通して集団の中で様子を観察、関係づくり



伝える情報の精選を!!

顔を合わせて

その生徒の情報共有を!!



- その児童の全体像
- 新しい生活に適應するために必要な内容

- 入学前の職員会、学年会等で
- その生徒にかかわる先生方と



中学校から高等学校への移行支援

特コハンドブック（長野県編集）P56・57

中学校

志望校を選ぶまで

受験に合格した後

高等学校
入学

移行支援のポイント

- とらえる
相談する
参加する
- 特別な教育的ニーズを
 - 特別支援学校教育相談担当者へ
 - 志望する高校へ（窓口は教頭）
 - 高校説明会へ
 - 高校体験入学へ

個別対応
も可能

- 伝える
- 「プレ支援シート」の活用を
 - 保護者の同意が必要
 - 「必ず高校につなげたい情報」
診断名・主治医・関係機関
特別なニーズ・有効な支援 等
- 機会を生かす
- 生徒指導連絡会 中高連絡会 等

限られた時間の中での情報伝達は難しいものです。伝える側と受け取る側が互いに「その児童生徒」のスムーズな移行や健やかな成長を願い、上記のポイントを踏まえながら移行支援に臨むことが大切です。学年間の進級はもちろん、校種をまたぐ進学においても切れ目なく、「その児童生徒」にかかわる全職員で情報を共有し、切れ目のない支援につなげていきましょう。



コミュニティスクールの取組事例 ～地域の思いが実現した活動～

地域住民が学校とともに活動をしていると、地域住民に「子どもたちとこんなことをしたいな」という思いが湧き上がってくる場合があります。今回は、地域住民の「やりたい」を実現した取組を紹介します。

作った野菜や地域の地場産の野菜を食べる経験をしてほしい！ ～食まつり「子どもレストラン」～

希望者を対象に、土曜日に家庭科室で行われました。子どもたちは、自分で握ったおにぎりと、地域住民が作った豚汁、デザートを食べました。学校施設を使用するので先生が開錠しますが、準備や子どもへの説明などの運営は地域住民によって行われました。



地域住民で豚汁やデザートづくり



子どもに説明する地域住民



子どもたちは紙コップを使っておにぎりづくり



コーディネーター

コロナ禍の前からやりたいと思っていたことがようやく実現しました。最初は公民館でやろうと考えたのですが、当時の教頭先生が「学校を使えばいい」と言ってくれました。毎年子どもたちと一緒に畑で野菜作りに取り組んでいて、「作った野菜や地域の地場産の野菜を食べる経験をしてほしい」と思ったのがきっかけです。クラスや学年の枠を越えた友だち、地域の人と食を通してコミュニケーションを取るきっかけになればと思って企画しました。

食生活改善推進協議会や普段からコミュニティスクールで学校と関わっている人に協力していただきながら実施できました。

家でも学校でもない子どもたちの居場所を作りたい！ ～ホリデー自習室～

月1回、土曜日の午後1時から5時まで、地域住民が公民館内の部屋を確保して、自習室を開いています。開放時間中はいつでも自由に出入りできるようになっているので、生徒は自分の都合に合わせて参加できます。午前中に部活動を行い、昼食後に友だちと待ち合わせて一緒に自習室に来る生徒もいました。



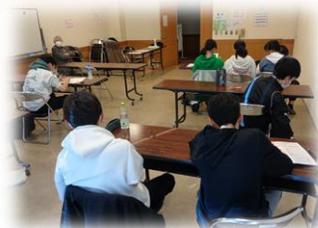
CS運営委員
(元PTA会長)

自分の子どもが高校生の頃、先生から「家ではない場所で学習すること」を勧められたことがありました。図書館で自習して成果がでたことをきっかけに、学習に自信をもちました。この経験から、子どもたちに家でも学校でもない学びの場、居場所を整えることを地域でできないかと思い、学校に相談したのが始まりです。

学校には学校だよりやオクレンジャーで日程を宣伝してもらっています。自習室の子どもの様子を見に来るなど、学校には気にかけてもらっています。

今は学習の場ですが、本当は何か食べながら友だちと話したり、遊んだりできる居場所になるとよいと思っています。

卒業生とその知り合いの人がボランティアで来てくれることがあります。人のつながりが広がったことがありがたいです。



個々のペースで学べる



一緒に考える生徒

これまでの活動で築かれた信頼関係をもとに、学校と地域住民で「どのような形ならできるか」を共有し、活動を実施していました。地域住民の思いを実現した取組は、「学校と一緒に子どもの育ちに関わる」という地域住民の当事者意識が高まることにつながります。

